

医療法人社団悠翔会の患者さまへ

当院では、患者さんの試料・情報を用いた下記の医学研究を、当法人の倫理委員会の承認ならびに理事長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しております。

本研究への協力を希望されない患者さんは、その旨を下記の問い合わせに示しました連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

なお、本研究への協力を希望されない場合でも不利益を受けることはありません。

研究課題名（研究番号）	【1か月以内の予期せぬ急変による再入院を予防する】～日本の在宅医療を利用する患者の、予期せぬ回避可能な1か月以内の再入院の個別要因と急変の備えによる影響～ ～患者・家族・多職種（訪問介護、施設職員、訪問看護師など）の急変予兆への気づきが再入院の予防に役立つか～（No.017）
研究実施機関	悠翔会在宅クリニック（新宿、葛飾、品川、北千住、新橋、川口、越谷、柏、稲毛、春日部、船橋、流山、川崎）、くらしケアクリニック（練馬、城東）ケアタウン小平クリニック、ココロまち診療所、ノビシロクリニック藤沢
当院の研究責任者（所属）	悠翔会訪問看護ステーション東京 椎名美貴
他の研究機関および各施設の研究責任者	北陸先端科学技術大学院大学 東京サテライト （主指導教員：西村拓一教授、副指導教員：金井秀明准教授）
研究の実施期間	西暦2025年10月2日～西暦2027年3月末日 （調査対象期間：西暦2022年6月1日～西暦2025年5月31日）
研究の目的・意義	病状の悪化があっても在宅療養を継続するためには、より精度の高い急変予防・予測と、本人の意向に基づく介入が必要である。本研究を行うことで、退院直後から急変までにバイタルサインが変化するなどの予兆について検証し、先行研究で明らかになっている回避可能な再入院の要因と併せて、医療従事者が病状変化を早期発見・早期介入できる可能性がある
研究の対象・方法	【対象患者】西暦2022年6月1日～2025年5月31日の期間に、上記研究実施機関において訪問診療を受けている以下の条件を満たす患者を対象とする。 ※対象予定の在宅療養支援診療所/対象予定の患者数は実際のデータ抽出により変動が予測される。期間内での実施可能性、担当者の作業管理面のから範囲を変更する可能性もある。 【選択基準】 ・各在宅支援診療所を利用中、もしくは新規に退院し各在宅支援診療所を利用開始 ・退院当日0日目として、0日目から30日目までの期間に在宅支援診療所へ電話や電子的な通信手段を用いて状態の相談、診察の依頼をしてきた患者 【除外基準】 ・既存の各在宅支援診療所を利用中の患者で期間内に入退院がなかった患者 ・新規に各在宅支援診療所を利用開始しなかった患者 【研究の種類・デザイン・方法】 ・後ろ向き症例対照研究 ・悠翔会在宅支援診療所のHOMISカルテのデータを用いて患者の詳細のデータベースを作成し、各群の間における特徴と傾向を重回帰分析による検証を行う。
試料・情報の他の研究機関への提供および提供方法	連携機関となる北陸先端科学技術大学院の西村教授、金井准教授より指導を受ける際には匿名化され個人を識別できない情報・研究資料のみ開示し、個人情報の持ち出しは行わない。共有時にはメールアドレスにパスワードによるセキュリティを掛けた状態でを共有する。 共有するメンバーは、共同研究者のみに限定する。
個人情報の取り扱い（個人情報の項目）	個人情報の漏洩を防止するため、全症例の特定の個人を識別できないように仮名加工を行い、個人に関わる情報を保護します。匿名化が困難となる場合には、別途同意文書や同意取得したことを電子カルテに記録する。
お問い合わせ先	悠翔会訪問看護ステーション東京：椎名美貴（電話：080-7200-3629） 北陸先端科学技術大学院大学：西村拓一教授、金井秀明准教授（電話：0761-51-1715）
備考（利益相反など）	本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。